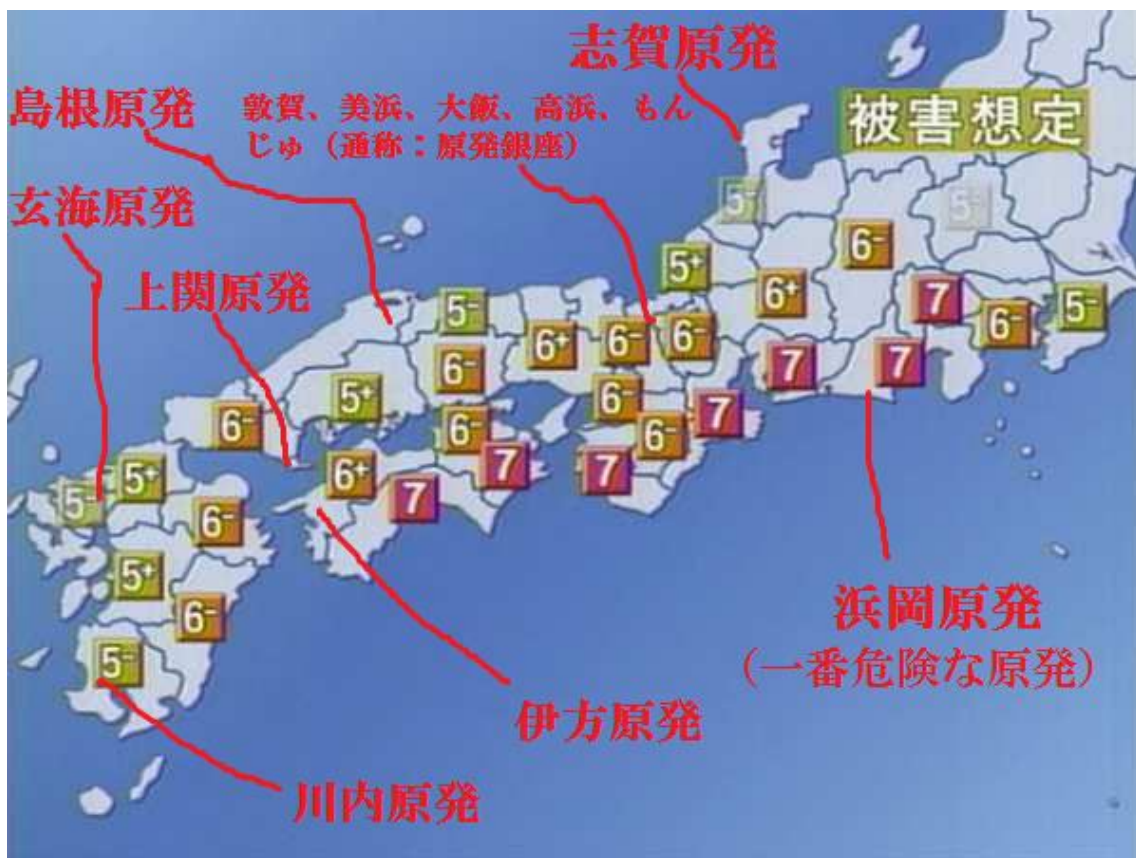


3.11 5周年 記念「常に備えよ」

協働型災害対応訓練

in バーチャルのご案内

来る5年目を迎える3月11日の東日本大震災を忘れないために、各地域での災害対応訓練を情報共有してのバーチャル&SNS活用での協働訓練を呼びかけています。1人でも参加できますので、ご自分の地域や団体にも呼びかけてぜひ、ご参加ください。参加はShakeOut方式です。(詳しくは裏面をご参照ください)



【訓練想定】東南海（南海トラフ）大地震

3月11日午前5時15分、[紀伊半島](#)南東沖を震源として巨大地震が発生。

※2011年12月に発表された中央防災会議の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」の中間とりまとめでは、南海トラフ沿いで起きると想定される巨大地震の最大規模として、震源域が従来のほぼ2倍に拡大され、暫定値としてMw9.0が示された。今回はこれをモデルに被害想定を行う。

各地の震度は上画面の通り。埼玉県内でも震度5弱の揺れがあると想定します。東京都内も震度6弱で前回の東日本大震災程度の揺れと被害です。東南海での想定される被害人数は約30万人。政府は愛知県、大阪府、香川県に緊急災害現地対策本部を設置。警察・消防・自衛隊およそ7万人（2日間延べ）の緊急救援を派遣することを決定。12万人規模の応援部隊による災害支援を計画実施。

この状況であなたは何をイメージしますか？

大地震に備えて「何をイメージしなければならないか」の訓練です。(災害ボランティアの皆さんへ)



【訓練シナリオ】※下記は市民キャビネット災害支援部会の行動イメージ例です。

①災害支援部会では各部隊に緊急連絡と招集を呼びかけるとともに、全国の救助犬団体に出動準備命令を発動。ヘリコプター部隊にも召集と準備を指示。待機命令を出す。情報収集で被害状況を把握、救援実行計画を策定する。

②非常呼集で集まったメンバーで災害対策本部を設置。ユニファイド・コマンド（統合指揮所）の人員を配置する。コマンダー、渉外官は県庁との連絡、その他関係機関との調整で偵察飛行と救助犬派遣要請を待つ。要請や指示により「出動命令」を連絡。それぞれが現地から出発する。

同時にそれら実行部隊編成を計画（計画情報部）。財務/総務部隊に保険、費用など労務から会計といった、実行部隊への連携を指示。また、補充人員の募集、支援物資、募金計画などを後方支援部隊に指示、SNS、通信などの連絡体制を整備して各地域の支部、部隊に出動要請があるまで待機の準備指令を出す。地域 SNS 拠点へも同様の要請や指示を出す。

③財務/総務部隊と後方支援部隊は連携して、人・物・金（災害ボランティアの実行部隊養成・編成・支援物資の募集と集積、配布・独自募金計画、日赤や募金会などからの助成などの）計画を策定する。

さて、あなたはあなたの地域や団体でどんな行動、支援を行うでしょうか？話し合みましょう。

- ① 朝、大きな地震で目覚めました。揺れが治まりましたが、余震が続いています。あなたは？
- ② 職場や団体への連絡が通じません。1日目の行動は？ 情報は？ 安否確認は？
- ③ 電気、ガスなどのインフラは止まったままです。朝食は？ 昼食は？ 今日どんな予定にしますか？
- ④ 緊急時の避難場所は知っていますか？ ようやく情報がわかり家も無事です。避難所に行きますか？
- ⑤ 地域での被害はあまりありませんでした。それでは被災地への支援に何をすればいいでしょうか？
- ⑥ こうして2日目、3日目、1週間、2週間と時間設定してできることなどを想定してみましょう。

このバーチャル訓練では、上記のようなイメージトレーニングを実施します。そして、まず「自分の身を守る。家族の安全を確保する」行動を考えましょう。次に、地域や各団体での「共助」を考えましょう。東日本大震災時での支援を検証し、次の災害に備えることを話し合います。

できれば、この訓練を身近なNPOや社協と「協働」して実施できるよう声をかけ、3.11に同じテーブルで話し合いの場を作りましょう。社協の職員、自治会や自主防災組織にも参加をお願いし、その場で急な変化に対応できるよう「災害VC（ボランティアセンター）」設置訓練などに広げましょう。この機会に行政の担当者や社協の方との話し合いの場を作りましょう。

登録は簡単です。以下のサイトの登録欄に、団体や地域で参加の場合はその名称・参加人数・代表者名・主なやったことのレポートをお送りください。地域のSNSに情報発信してもOKで

す。詳細は <http://saigai-v.net>